追求の意欲を持たせる家庭科指導

家　庭　科

1．家庭科教育でめざす子どもの姿

家庭科教育を通してめざす子どもは，生活的自立のための基礎的な知識・技能を身につけるとともに，家族の一員としての自覚を持ち，家庭生活をより良くしていこうとする子どもである。すなわち，生活していくときに必要な自分の身のまわりのことは最低限できるようにさせるとともに，「子どもは親の附属物であり，家庭生活における仕事は親に任せていれば良い」という意識を少しずつ変容させていきたいと願っているのである。次に，その具体的な姿を示す。

(1) 家庭生活に関心をもつ子ども

家庭生活をおくるための基礎的知識・技能を身につけさせようとするとき，或は家庭生活をより良くしていこうとするとき，まず自分自身の家庭生活に関心を持っていなければならない。家庭生活の現状を知っていてこそ「こんなことができるようになりたい」「ここをもっと良くしてみたい」と思えるようになるのだと考える。

そのためには，教師が家庭生活に目を向けさせるような機会を与えてやらなければならない。そうすることにより，ともすれば気にも留めず見過ごしてしまう家庭生活でのあらゆる事象に目が向けられるようになるであろう。

(2) 科学的視点で家庭生活を見つめる子ども

家庭生活に関するあらゆる事象を処理するには，科学的視点を通して合理的に行わなければならない。科学的認識力を備えたならば，学校で学習したことだけでなく，それに関わる様々な事象について発展的・応用的に問題を解決していくことができるであろう。このことは，生活的自立のための根幹を成すと考えられる。

科学的視点で家庭生活を見つめる子どもに育てるには，子ども達が目を向け関心を持ったそれぞれの事象に対し，科学的視点からその原理を理解させたり追求させたりする場をできる限り多くもつことである。つまり，観察・実験などの活動を十分に取り入れることが重要になってくる。

(3) 創意・工夫する子ども

基礎的な知識・技能を体得した後は，それを十分に生かしつつ自分らしさを表現したり，より良いものを目ざしたりする，創意工夫をする子どもに育てたい。創意工夫する喜びを知ったなら，学習したことを家庭でもすすんで実践していくことができると考える。

そのためには，授業の中でも型にはまった物や事を作らせようとしたりさせようとしたりするのではなく，ある程度自由な活動が取り入れられるようにする必要がある。また，そうすることにより，子どもの学習意欲も増すであろう。

2．意欲を持って追求する授業の条件

このような子どもに育てるためには，主体的に問題解決に取り組む姿勢を育てることが重要となり，そのような姿勢を育てるには，授業を構成するにあたり次のような条件を整えておく必要がある。

(1) 学習のめあてを明確にし，主体的につかませること。

子どもが追求していくに価するめあてを明らかにする。また，めあてを自分のものとしてつかませるような場の設定が必要である。

(2) 子どもが選択・工夫する余地があること。

個々の子どもの考えによって選択・決定したり，工夫したりする余地を残すことにより，活動の幅を広げる。

(3) 子どもの生活と関わりを持たせること。

題材構成は子どもが生活を見つめることから始まり，生活に即しながら学習を進め，学習後は生活の中に還っていくようにする。

(4) 子どもの発達に適していること。

題材そのものに限らず，使用する用具，材料，資料等，子どもの発達段階に適したものを吟味し，選定する。

(5) 子どもが自らの体を動かす学習形態を取り入れること。

実験，観察，実習，調べ学習等，子どもが目や手や耳をしっかりと働かせることができる学習形態をできるだけ豊富に取り入れる。

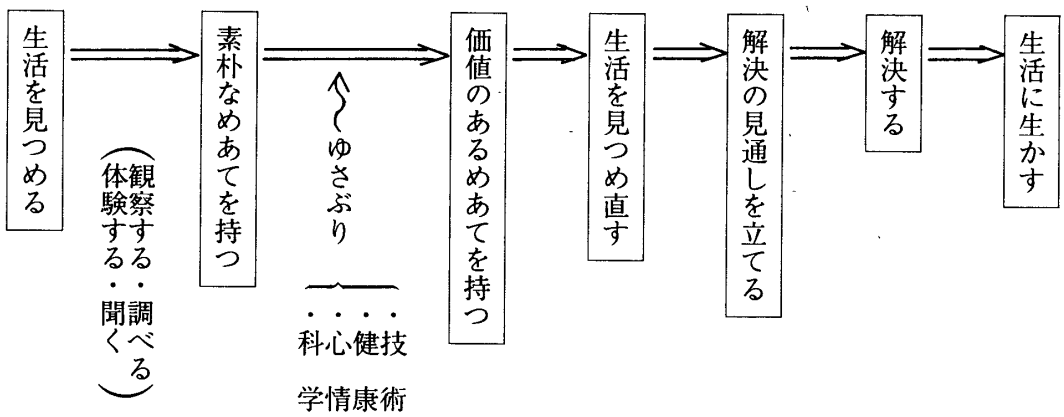
(6) 啓発性があること。

子どもが見過ごしてしまったり，表面的なこととしか捉えられない問題について，科学的な視点を与えることにより驚きや疑問を持たせる。

(7) グループで支え合う場があること。

個の活動や学級全体での支え合いだけでなく，折りふれてグループで協力し合い，支え合う場を持たせるようにする。

3．家庭科におけるめあて追求の過程



4．評価

指導目標にどの程度，どのくらいの数の子どもが到達したかを知る，教師のための授業評価としては，授業の中での観察法，授業中や授業後の文章による記述法，実習時にはカードに◎○△を記入する自己評価を用いている。一方，子ども自身が自らの到達度や学習上の問題点を知るための評価としては，前述した実習中の自己評価カードのみである。

教師がより正確に客観的に授業を反省するための評価，子どもがより学習意欲を盛り上げるための評価のあり方を，今後研究していく必要があると考えている。

（森）